



日本・ベトナム友好議員連盟 武部勤特別顧問

Tsutomu Takebe Special Adviser for the Japan-Vietnam Parliamentarians' Friendship League

日越大学特別講演

Special Lecture at Vietnam Japan University



日時 Date and time

Thr, December 8th, 2016

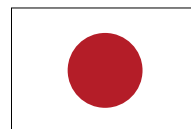
13:00~14:30

於 In

ベトナム国ハノイ

Hanoi, Vietnam

日越大学ミーディン・キャンパス 4階 大教室
Vietnam Japan University, My Dinh Campus



序文

2016年9月、日本とベトナム、両国の関係者による長年にわたる準備期間を経て、日越大学は、両国友好と結束の象徴として開学しました。今後、日越大学はASEAN諸国をはじめとするアジアや世界各国から広く学生を受け入れ、グローバルな活躍ができる人材を育てていきたいと考えています。



今般、修士課程第一期生に向け、日越大学建学の精神と人材育成の基本理念を理解してもらうべく、日本・ベトナム友好議員連盟の特別顧問である武部勤氏をお招きし、特別講演を開催しました。武部氏は、同議連の会長であった頃より十余年にわたり、日本とベトナム両国の懸け橋となり、日越大学設立の礎を築かれた立役者のお一人であり、今回の演台にお立ちいただくにまさにふさわしい方といえます。当日は、学生や大学関係者の他、日越両国政府・援助機関の関係者等、約100名が参加し、記念すべき講演となりました。

本誌は、同講演の様子をまとめたものであり、日越大学の設立及び今後の展開にかける関係者のメッセージ、また第一期生諸君が抱いた率直な感想等が込められています。日越大学構想の実現に向けて、当初から情熱をもってご尽力されてきた武部氏の熱い想いを感じていただけますと幸いです。

手に取っていただいた皆様には、日越大学の来歴、基本精神、理念をご理解いただくと同時に、これからもチャレンジを続ける日越大学関係者一同を見守っていただけますと幸いです。

2017年1月 日越大学学長

古田元夫

日越大学特別講演録

日越友好議員連盟・特別顧問の武部勤でございます。本日はお忙しい中、大勢の皆様にお集まりいただき、まことにありがとうございます。

私が、このミーディン・キャンパスを訪問させていただいたのは、9月の開学式以来であります。本日、実際に第一期生の皆さん、先生方や関係者の皆さんが熱心に教学に励んでいるのを目の当たりにして、「本当に日越大学のキャンパスライフがスタートしたのだ」ということを改めて実感し、長年夢見てきた風景が今まさに目の前にあることに感無量の思いであります。

本日は、皆さんが入学されたこの日越大学が、どのような経緯を経て開学に至ったのか、将来の展望や皆さんへの期待も交えながらお話したいと思います。

<私とベトナム>

最初に自己紹介をさせていただきますと、私は28年間の衆議院議員時代、農林水産大臣や自民党幹事長などを務めて参りましたが、並行してベトナム友好議連会長、インドネシア友好議連会長、メコン5か国友好議連会長、そしてモンゴル友好議連会長などを歴任し、アジア諸国との友好に情熱を注いでまいりました。とくにベトナムとの関係は深く、2013年には日越友好に大きな貢献があったとして、「友好勲章」を賜りました。2012年11月に政界から引退し、2013年には、一般財団法人東亜総研を設立し代表理事に就任、これから日本がアジアの一員としてグローバリゼーションの中で「共に助け合い、共に励まし合い、共に力を集めて問題を解決するという『協和の精神』で共存共栄のアジア新時代をつくろう」という理念を掲げ、アジア各国との友好促進、プラットフォームづくりに励みながら、今日に至っているわけであります。その一環として日越大学構想の推進に全力を尽くしてきた次第であります。



特別講演の様子

<日越関係>

さて日越大学の誕生経緯に触れる前に、先ず日越両国関係の歴史を簡単に振り返りたいと思います。日本とベトナム両国の関係は古く、8世紀にさかのぼります。当時、留学のために唐に渡った日本からの留学生が、帰国時、安南に漂着したことが伝わっています。中でも有名なのは、阿倍仲麻呂(698-770)でありまして、761年から767年までハノイの安南都護府で節度使等を務めました。

752年の東大寺大仏開眼供養でチャンパの仏僧、仏哲がベトナムの雅楽を演奏し、日本の雅楽伝統の重要な一部となったと言われています。

また、16-17世紀には、日本とベトナムの接触は交易という形で盛んになりました。日本を出港した朱印船(交易船)は、シャム(タイ)やマレーシアなどとともにベトナムの港を頻繁に出入りしました。ベトナムの記録によれば、17世紀初頭、阮潢(グエン・ホアン)によってホイアンの港が開かれた時には、何百人もの日本の商人がそこを住処としていたということです。

ホイアンには日本町と呼ばれる日本人居留地が設けられ、現在もホイアンの人々に日々使われている「日本橋」が建立されました。その後も両国は良好な交易・友好関係を謳歌いたしました。

日越間留学の歴史としては、1905年、潘佩珠(ファン・ボイ・チャウ)が日本にたどりつき、後に首相となる犬養毅や大隈重信に武器援助を求めました。しかし犬養毅は武器援助は即座に断り「もっと大事なことで支援しよう」といい、ベトナムの若者を留学生として受け入れたのであります。「東遊(ドンズー)運動」がそれです。1907年5月には16人が来日し、一時は200人以上が東京に滞在しました。困窮した潘佩珠に現在価値でいうと約2,000万円もの資金を援助した浅羽佐喜太郎(あさば・さきたろう)との友情関係は、いまでも両家の毎年の交流として伝わっているのであります。

そして第2次世界大戦後、ベトナムはフランス軍と戦うことになりますが、ポー・グエン・ザップ将軍が2005年、NHKテレビで「我々の軍は弱小だった。しかし日本人が我々を支えてくれた功績は大である」と語っています。井川省(いかわ・せい)少佐が最高顧問役として幹部養成のための陸軍士官学校と中級幹部養成のための軍政学院を立案し、それぞれの校長に日本人を据えたという話を踏まえたものであろうと思います。日本人教官は「率先垂範」と「師弟一体」をモットーに猛訓練を行ったということです。



2013年8月2日ベトナム社会主義共和国 友好勳章授与式
(左からドン・スアン・フン大使、武部新衆議院議員、武部勲名誉会長、
トニー・フイルア越日友好議員連盟会長・党中央組織委員長、大使令夫人)
© Japan Vietnam Economic Forum

20世紀の戦争の歴史を経て、南北ベトナムの統一によるベトナム社会主義共和国の誕生の後、1975年10月11日、日本はハノイに大使館を設置、1976年8月には両国国交が樹立されたのであります。

現在に至るまで、日越両国は緩やかな同盟関係にあり、日本からの官民による経済支援も盛んであります。また2015年6月現在、日本に留学しているベトナム人は43,448人と、中国に次ぎ、世界第2位であり、長い歴史を持つ両国間の人的・知的交流はますます盛んになっています。日越大学のロゴも桜と蓮が並んでいますね。私は桜の国日本と蓮の国ベトナムを称して桜蓮同盟とこう呼んでいます。日越大学はこうした日越の長い歴史の中で、必然的に生まれた流れであるともいえるのではないのでしょうか？

<日越友好議連会長時代の話、日越大学開学に至る日越政府高官の思い>

さてここで、日越大学構想が生まれた経緯を紹介したいと思います。

2005年、小泉政権下で自民党幹事長に就任した私に、就任間もないグエン・タン・ズン首相から「新幹線、高速道路、ホアラック・ハイテクパーク（ハノイ市）の建設」いわゆる「三大案件」についての協力要請がありました。日越友好議連会長でもあった私は元運輸大臣経験者の二階俊博先生を座長に「三大案件検討委員会」を設置し議論を始めました。その中で「ベトナム側からハイテクパークに日本企業の進出を期待する声がある、相当に高度な人材が必要になるのではないかと、日本語や英語も学ぶことができるカレッジを民間主導でつくってみてはどうか」ということで日越友好議員連盟は、教育機関設立の提案と3大案件のサポートを決定したのであります。

その後2006年、安倍首相とグエン・タン・ズン首相による「戦略的パートナーシップ」を目指す共同声明のなかで、3大案件のひとつとしてホアラック・ハイテクパークが盛り込まれ、私の日越大学実現に向けた活動が始まったのであります。

また私は当時教育訓練大臣でもあった、グエン・ティン・ニャン副首相からも「ドイツ留学経験者の自分は、今、独越大学の建設に着手しているが、日本語に堪能な人材も育てたい。ぜひ武部幹事長には日越大学を作って欲しい」と頼まれたことを思い出します。

その後、ト・フィー・ルア越日議連会長との間で、2013年の日越外交関係樹立40周年の機会に、両国友好議員連盟でアジアの若者の夢や希望を叶えるに相応



ホアラック・ハイテクパーク構想
© 2011 Hoa Lac High-tech Park

しい記念事業として、日越大学構想の推進を誓いあったのであります。その後、2013年12月15日に行われた安倍晋三首相とグエン・タン・ズン当時の首相による会談において議題にあがり、本格的なスタートを切ることとなりました。この首脳会談に向け、日越友好議連は同12月10日、以下4点の決議文を採択し、安倍首相に提出いたしました。



グエン・タン・ズン元首相、日越友好議連他有識者メンバーと（2013年）

© 東亜総研



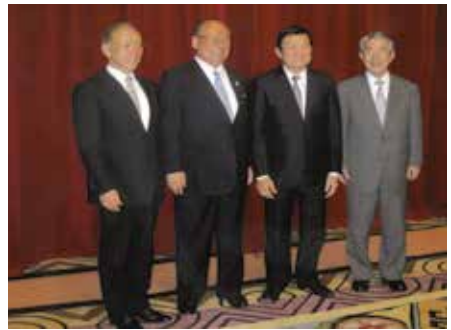
グエン・フー・チョン書記長、日越友好議連二階俊博会長他と（2016年9月9日 於：首相府）

© 東亜総研

- ①政府はズン首相との首脳会談で日越大学構想について、積極的な協力を確認すること。
- ②政府は JICA(国際協力機構) における基礎情報収集調査の結果を踏まえ、円借款供与へ向けた準備に着手すること。
- ③政府は、大学組織や教育内容、教員や研究者、優秀な学生の確保、必要な資機材について支援スキームを構築し、産学官が一体となって実行できる体制整備を踏まえること。日本企業のニーズを踏まえ、我が国の高等専門学校を参考に、実務的・実践的な人材を育成するプログラムを構築すること。
- ④政府は大学設置が想定されるホアラックでのエコシティ開発について、交通手段の実現可能性などを勘案し、中長期的な開発の可能性を積極的に検討すること。

その後、アジアのための平和と繁栄のための広範な戦略的パートナーシップを結び、チュオン・タン・サン国家主席が国賓として来日された際に、日越共同声明の中で正式に盛り込まれ、グエン・フー・チョン書記長との間において確認され今日に至っているのであります。

今や教育訓練大臣としてご活躍のニャー・フン・スアン ベトナム国家大学ハノイ校総長とは何度も論じ合いました。ベトナム国家大学ハノイ校をはじめベトナム側の誠意あるご協力にあらためて敬意と感謝を申しあげたいと思います。日本側においては、自民党の中に日越大学推進議員懇話会が設置され、政治主導で強力に働きかけた結果、官邸にも首相直属のタスクフォースが立ち上がるなど、日本側の支援体制も急速に整いました。おかげで、2016年9月に晴れて開学し、皆さんはその一期生として本日ここにいることになったのであります。



チュオン・タン・サン前国家主席、谷崎元大使、東急グループ越村相談役と(2013年)

© 東亜総研



日越大学開学式 (2016年9月)

© 日越大学

小泉純一郎元首相から紹介された日越経済フォーラムの吉田允昭（よしだ・まさあき）代表との出会いについても、触れないわけにはいきません。サン国家主席と接点があった吉田代表は、50年後、100年後の日本・アジア・世界を考え、日越大学構想に類まれな情熱を傾け行動されました。官邸にタスクフォースチームが設置され、政府として構想推進に向け一気に動き出したのは吉田代表のご尽力の賜物といっても過言ではありません。吉田代表との出会いなくして私自身もここまで日越大学に関わることはなかったと思います。

さて、次に、日越大学建学の精神について、皆さんのご理解をお願いしたいと思います。

<日越大学建学の精神>

かつて安倍首相のおじい様である岸信介元首相が、電気通信専門学校をタイにつくりました。当時の電電公社藤井松太郎総裁に話を持ちかけ、更に東海大学の松前重義学長を動かしていただき、長年にわたる人的・資金的協力を経

て実現したのであります。そして1986年安倍晋太郎外務大臣のもとキング・モンクット王工科大学ラカバン校が開設され、当時安倍首相は、父上の外務大臣の秘書官として同行したと聞いております。このような岸ドクトリンと同じ考え方でこの日越大学構想も進めてきたともいえます。

日越大学は、日本にとって自国のみならず、アジア地域および国際社会の平和と繁栄のために能動的・積極的に行動を起こすいわゆる「積極的平和主義」の象徴ともいえる大事業であります。

歴史を振り返っても、日越ともに過去を乗り越え、今はアジアの未来と平和を志向している点でも共通しています。日本とベトナムは、両国の国家戦略として全く新しい大学を作る思いを、日越大学に託しています。欧米流の大学ならシンガポールに行けばよく、日本的な大学であれば日本へ留学すればよいわけです。アジアならではの大学を作るといふことに日越大学の理想があると思うのであります。だからこそ、西欧を理想とするのではなく、私は日越大学はあくまでも「アジアのハーバード大学」たるべき、と言い続けてきたわけです。これは、1638年に土地と蔵書を寄付した副牧師ジョン・ハーバードに因んだもので、土地と建物などの基盤を日越政府が提供することを目指した建学の精神を示唆するものでもあります。

これからはアジアの時代です。日本とベトナムが共同でアジア発の世界に誇る大学を、学生の皆さんとともにつくっていく。今や世界は大きく変動しつつあります。世界を変えアジアを変える原動力たる日越大学が、多民族、多宗教、多文化のなかで培った多様なエネルギーと知恵を日越大学が創りだす。そして平和と繁栄を創り出す。その象徴が日越大学であり、皆さんはサステナビリティ学を掲げた世界初の大学院で学ばれているのであります。

本日、皆さんにお渡しした「KYOJINKA」は、2011年3月の東日本大震災で多くの命を失った経験を経て、2014年6月、今や自民党幹事長として存在感の大きい二階俊博先生が会長を務める国土強靱化総合調査会において、「災害に強いしなやかな国造りを目指す」ために続けられた議論、提案を基にまとめられたものであります。防災・減災の大切さ、人と人との絆の尊さを重視する「レジリエンス・ジャパン」の取り組みが、はじまっています。ベトナムもまた有数の災害国といわれていますが、その意味でも日本とベトナムは課題を共有しているといっても過言ではありません。今後、日越大学に気候変動・防災研究所の設立を急ぐべきと私は思います。「災害に強いしなやかな国造りを目指す」、これは日越大学の理念であるサステナビリティとも通じるものでありますから、先ずは本書を皆さんにひもといてもらえればありがたいと思います。

<学生たちへの期待>

今後、我々は日越大学を5年、10年、15年(昔の武士なら元服)と育てていき、やがて世界屈指の将来は国際大学として国際的に活躍する人材を数多く輩出していくであろうと確信します。第一期生のみなさんには、日越大学の建学の理想に向って、未来を切り開くチャレンジャーたらんことを切望し、私の話を結びたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

**** 講演了 ****

【ご列席いただいたコメンテーター】



トー・フィ・ルア
日越大学名誉学長



グエン・ホアン・ハイ
日越大学副総長



在ベトナム日本国大使館
梅田邦夫 特命全権大使

【学生からの質問】

1. 日越友好関係における日越大学の現在と今後の位置付けについて聞かせて欲しい。
2. 持続的な発展のために、日越大学が一期生に対して期待することは何か聞かせて欲しい。
3. 本日の講義を伺い、今まで仕事に熱意を注ぎながら完成させる姿に感銘したが、ベトナムの若者に対し、その秘訣について教えて頂きたい。
4. アジアのハーバードを目指す日越大学において、日越両政府はその実現までのロードマップ及び具体的な政策を準備しているのか。あればその概要を教えて欲しい。
5. 大学間の連携促進のために、例えば、インフラ整備、学生の能力、入学・卒業のレベル、研究成果など世界で共通する基準は多くあると考えるが、それらの基準の中で、日越大学が一番重視する基準について教えて欲しい。

【回答】

皆さんの質問には共通項があると思います。例えば皆さんからすれば、日越大学はなぜ大学院から始めたのか、普通は学部から修士課程、博士課程へと広げていくのが普通の大学の姿だと思います。今までの質問に共通しているのは、日越大学がこれからどうなるのかということに対し、皆さんの期待、不安や

夢があると思います。これらの問題はベトナム側においても検討しており、例えば、大学の全体像についてベトナム側も準備調査をやるうとしてしています。先ほども話したように、日本側においては、安倍首相直属のタスクフォースが立ち上げられ、そのもとに日本の経済界、大学、政府の各代表の方々によって設置された有識者会議は、日越大学の全体像について、先般中間報告を安倍首相に提出しました。官邸からは、引き続き有識者会議を続け、そこで議論を詰めてもらいたいという要請があったため、有識者会議はこれからも当面の間、継続して行われます。

日越大学の将来像について、現状分析や将来展望を含めて実態に即した調査を行い、それに基づき円借款等財源をどうするか、民間にどのように協力を求めるかといったことを明らかにすることになると思います。

日本においては、明治の開国の際に初めて学校が作られましたが、当時はマスターやドクターを持った人はおらず、普通の人々が先生をやり、大学生と一緒に大学をつくったものです。何の資格もないといっても過言ではない人の手によって、東京大学はできました。また、札幌の農学校も北海道大学の前身です。



特別講演の様子

© 日越大学

皆さんにお願いしたいことでもありますが、日越大学の将来展望は、一期生の皆さんがどれだけの熱意をもってこの大学で頑張ってくれるか、成果・結果を出してくれるかといった極めて重要なことであり、皆さんはその先駆者であることをここに強調したいと思います。

結論として申し上げたいのは、本当にアジアのハーバードになるということです。10年、20年のうちに、世界にも誇れる国際大学になります。日越大学は、そういう確信のもとに両国政府が取り組んでいるという現状を理解してもらいたいと思います。

私は逆に皆さんに対し、どうして日越大学に入学してくれたのかを聞きたい。

これから日越大学が発展し作られていく過程において、皆さんの気持ちやそれに応える日常の計画は重要です。具体的なロードマップをお示しすることにはならなかったかもしれませんが、一番大事な問題は、皆さんの二度とない人生、二つとない命、これを台無しにすることはできないということです。先ほど梅田大使から日本国政府を代表し、日本国政府が責任を持って協力すると



特別講演の様子

© 日越大学

いう話がありました。甘い言葉を皆さんに言うわけにはいきませんが、皆さんが合格してここで学んでいるのは、ごく恵まれた若者であるということであり、皆さんの将来を絶望、失望させることはありません。皆さんはベトナム、アジア、世界の先駆者です。日越大学の先生は素晴らしい方々ばかりですので、この先生方の身分もきちんと保証できるような環境を早く確立できるようにしたいと思います。ぜひ皆さん、自分自身と戦ってください、ベストを尽くしてください。皆さんが望む道は必ず開けます。私は皆さんがうらやましく感じます。



特別講演の様子

© 日越大学

私はもう75歳で、あと50年も生きるわけにはいきません。もう一度人生をやり直すことができるなら、私は皆さんの仲間に入り、先頭を切って、先生や学部がどうであろうと、日越大学をアジアのハーバードにするために、自分のベストを尽くすでしょう。もう一度、人生をやり直すことができないことが一番残念です。私は前を見て歩き、絶対あきらめず、世のため人のために生き抜きます。

だから元気でしょ、75歳に見えますか、皆さんよりも精神力は若い。ぜひ皆さんも、そういう魂を日越大学の中に植えつけてください、それが日越大学の本来の姿になると思います。皆さんの努力ぶりを見て、外部からお金が集まります、集めます。

私は今年ベトナムに9回来ていますが、故郷には5回しか帰っていません。何のためにこんなことまでするのか、それは若者たちにかんばってほしいからです。未来へチャレンジしよう、世界、アジア、ベトナムを変えよう。もっと言えば、良い職場に就職できて給料をたくさんもらうことではなく、どんなことがあっても一つの目標や理想に向かって自分はやり抜くんだという気持ちを皆さんに持ってほしい。世界、地球は危ない、それを変えるチャンスを君たちが持っています。チャンスを得るためには自分自身がチャレンジしなければなりません。そしてチャレンジするために、今までの自分を日越大学で新しい自分にチェンジしてください。目標があるのは奇跡、私が本日皆さんに会えたのも奇跡です。皆さんがチャンスをつかみ、ものにするために我々は応援します。そのためにチャレンジしてください。そのためには自分が変わらなければなりません。本日は、チャンス、チャレンジ、チェンジ、この三語を皆さんに送ります。この三つは、皆さんへの贈りものです。毎日唱え、実践してください、そうすれば君たちも変わるし、日越大学も変わります。その先に、アジアのハーバードの称号も見えてくるでしょう。



日越大学ミーディンキャンパス
© 日越大学

Preface

After a preparation period of many years by Japan, Vietnam and other relevant parties, Vietnam Japan University (VJU) was opened as a symbol of friendship and unity between the two countries in September 2016. In



the future, VJU will widely accept students from ASEAN nations, other Asian countries and from around the world and develop human resources who will be able to flourish worldwide. We recently invited Mr. Tsutomu Takebe, special advisor for the Japan-Vietnam Parliamentarians' Friendship League, to give a special lecture to the members of the master's program inaugural class to underscore the philosophy behind the establishment of VJU and the fundamental principles of human resources development. Mr. Takebe has been one of the leading figures in laying the foundation of the establishment of VJU. He did this while acting as a bridge between Japan and Vietnam in a span of over ten years since being chairman of the Japan-Vietnam Parliamentarians' Friendship League. He is the perfect person to be on this podium. About 100 people, including VJU students, members of university faculty, relevant parties of the Japanese and Vietnamese governments and supporting institutions, made up the audience for this most memorable lecture. It would be appreciated if you could feel the passion and dedication of Mr. Takebe, who has consistently exerted himself to realize the plan of VJU, from his lecture.

This booklet chronicles the lecture, contains messages from those involved in establishing and developing VJU and includes the sincere comments from members of the inaugural class.

We hope this booklet will assist you in understanding the history, philosophy and principles underlying VJU and wish all of you to keep watching warmly over the challenge of VJU.

Motoo Furuta

Rector, Vietnam Japan University
January 2017

Special Lecture at Vietnam Japan University

My name is Tsutomu Takebe. I am a special advisor of the Japan-Vietnam Parliamentarians' Friendship League.

I am pleased to be here with you today. The last time I visited the My Dinh campus was in September at the opening ceremony. Today I see that all of the inaugural class, faculty and staff have been striving in education and learning and I am again realizing that campus life at Vietnam Japan University (VJU) has really started. In the fullness of my heart, I feel that what I had dreamed about for many years is now right before me.

Today, I would like to talk about how VJU was established and about its future prospects and expectations.

< Vietnam and myself >

Please allow me to introduce myself. In Japan, I served as the Minister of Agriculture, Forestry and Fisheries and Liberal Democratic Party (LDP) Secretary-General when I was a member of the House of Representative for 28 years. I have also served as chairman of the Japan-Vietnam Parliamentarians' Friendship League, chairman of the Japan-Indonesia Parliamentarians' Friendship League, chairman of the Japan-Mekong Parliamentarians' Friendship League and chairman of the Japan-Mongolia Parliamentarians' Friendship League. I have been enthusiastically involved in promoting friendship with Asian nations. I have had a particularly strong relationship with Vietnam and was honored to receive the Medal of Friendship in 2013 for significant contributions to friendship between Vietnam and Japan. I retired from politics in November 2012. In 2013, I established The TOA Institution and became its Chairman & CEO. I have established the principle "Spirit of Concord" in which all Asian nations "help



Special lecture by Mr. Tsutomu Takebe

and encourage each other to solve problems together by consolidating each other's strengths to create a new Asian era of co-existence and co-prosperity." I have followed this principle down to this day by promoting friendship among Asian nations and establishing a platform for promoting friendship. As a part of my lifetime commitment, I have been making every possible effort to promote VJU.

< Vietnam Japan Relations >

Before talking about the establishment of VJU, I would like to briefly review the history of the Vietnam Japan relationship. Vietnam and Japan have a long history, going back to the 8th century when a Japanese who was en route to study in Tang was washed ashore in Annam on his way back to Japan. The most famous Japanese was Abe no Nakamaro (698 - 770), who served as a setsudoshi, a regional military governor in ancient China, in Hanoi from 761 to 767.

When the ceremony to consecrate the Great Buddha of Todai-ji temple was held in 752, Buttetsu, a Buddhist priest from Chamba, played Vietnamese court music and, according to historical records, became an important part of Japanese court music.

In the 16th and 17th centuries, Vietnam and Japan were in frequent contact, mostly involving trade. A *shuinsen* trading ship left Japan frequently and visited Vietnamese ports as well as ports in Siam (current Thailand) and Malaysia. According to records in Vietnam, when the port of Hoi An was opened at the beginning of 17th century by Nguyễn Hoàng, hundreds of Japanese merchants were in residence.

A Japanese settlement called "Japan Town" was established in Hoi An, where the "Japan Bridge" is still being used by the residents of Hoi An. Since then, both countries have enjoyed good commerce and an amicable relationship.

According to the history of student exchanges between Vietnam and Japan, Phan Bội Châu came to Japan in 1905 and asked for arms support from Tsuyoshi Inukai and Shigenobu Okuma, both of whom later became



Award ceremony - Medal of Friendship of the Socialist Republic of Vietnam (August 2, 2013)
(From left, Ambassador Phùng Xuân Nhạ, House of Representatives Member Arata Takebe, Honorary Chairman Tsutomu Takebe, Mr. Tô Huy Rứa, Chairman of the Vietnam-Japan Parliamentary Friendship Association / Chairman of Party Central Committee, Mrs. Phuan (Ambassador's wife))
© Japan Vietnam Economic Forum

Japanese prime ministers. Inukai, however, quickly refused the request for arms support, saying that "we can offer support for a more important cause" – that of accepting young Vietnamese students for study in Japan. It is well known as the "Đông Du" (Vietnamese political movement). In May 1907, 16 Vietnamese arrived in Japan and for a period more than 200 Vietnamese were living in Tokyo. At that time, the philanthropist Sakitaro Asaba, gave financial aid to a destitute Phan Bội Châu by offering about 20 million yen (current value). Both families still maintain a friendship.

In the course of history, Vietnam warred against the French army following World War II. In 2005, General Võ Nguyên Giáp told one of NHK's television programs that while "...our army was weak, it was an enormous advantage that the Japanese supported us". I think he was talking about Major Sei Igawa, who was a top adviser to the Vietnamese army and established a military academy to educate officers and a military school to educate mid-level officers by installing Japanese principals at each school. I know those Japanese instructors gave strict training under the philosophy of "example by leadership" and "teacher and student as one body".

Following the wars of the 20th century, the Socialist Republic of Vietnam was born through a unification between North and South Vietnam. On October 11, 1975, Japan opened its embassy in Hanoi and both countries established diplomatic relations in August 1975.

Vietnam and Japan have continued to maintain a loose alliance, and economic support to Vietnam from both public and private sectors in Japan continues to thrive. The number of Vietnamese studying in Japan stood at 43,448 as of June 2015. This is second after China. This human and intellectual exchange represents a long history between both nations and has continued to expand. The logo of VJU shows a cherry and lotus side by side. I call it the "Cherry Lotus Alliance", symbolizing the cherry of Japan and the lotus of Vietnam. I believe that VJU was born as a result of the long history between Vietnam and Japan.

< Mr. Takebe talks about his days as chairman of the Vietnam Japan Parliamentarians' Friendship League and thoughts of high officials from Vietnam and Japan regarding the establishment of VJU >

The idea of establishing VJU was actually born in 2005 when I assumed

the position of LDP Secretary-General in the Koizumi administration. Shortly after, Prime Minister Nguyễn Tấn Dũng made a cooperation request for three major projects: building a shinkansen, a highway and the Hoa Lac Hi-Tech Park in Hanoi. At the time, I was chairman



Hoa Lac High-tech Park Project
© 2011 Hoa Lac High-tech Park

of the Japan-Vietnam Parliamentarians' Friendship League and established an exploratory committee for the three projects, inviting Mr. Toshihiro Nikai, former Minister of Transport, as the chairman, to begin discussions. One opinion derived from the discussion was that Vietnamese wanted Japanese companies move into the Hi-Tech Park. Such a move would require a very high level of human resources. The idea was floated about a private initiative to establish a college in which Vietnamese students would learn Japanese or English." This resulted in the Japan-Vietnam Parliamentarians' Friendship League proposing the creation of an educational institution and a decision to support the three major projects. In 2006, Prime Minister Abe and Prime Minister Nguyễn Tấn Dũng announced in a joint statement the aim of a strategic partnership in which the Hoa Lac Hi-Tech Park would be included as one of the three major projects. And so I began to work on establishing VJU.

I also remember that Deputy Prime Minister Nguyễn Thiện Nhân, then the Minister of Education and Training, made a request to me saying that "...I once studied in Germany and was involved in establishing the Vietnam Germany University but I want to develop additional human resources who are fluent in Japanese. I want Mr. Takebe to establish VJU."

In 2013, I met Nguyễn Thiện Nhân, Tô Huy Rúa, chairman of the "Vietnam-Japan Parliamentary Friendship Association", at an event celebrating the 40th anniversary of the establishment of diplomatic relations between Vietnam and Japan. At that event we pledged that the Parliamentary Friendship Associations of both nations would promote the establishment of VJU as a commemorative project to realize the dreams and hopes of young Asians. Later on, that project was brought to a top-level meeting between Prime Minister Abe and former Prime Minister Nguyễn Tấn Dũng on December 15, 2013, and this became the official launch of the project. On December 10,



Former Prime Minister Nguyễn Tấn Dũng with Vietnam-Japan Parliamentary Friendship Association members and experts (2013)

©The TOA Institution



Mr. Nguyễn Phú Trọng, General Secretary of the Communist Party of Vietnam and Mr. Toshihiro Nikai, Vietnam-Japan Parliamentary Friendship Association with other members. (Prime Minister's Office, September 9, 2016)

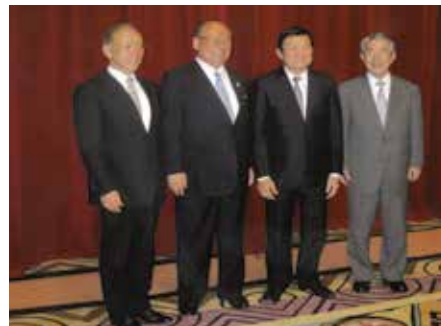
©The TOA Institution

before this meeting, the Japan-Vietnam Parliamentarians' Friendship League submitted to Prime Minister Abe resolutions on the following four points.

- ① In a top-level meeting with Prime Minister Dũng, the Japanese government confirms its active cooperation in the establishment of VJU.
- ② The Japanese government starts preparation for extending a yen loan in accordance with the results of data collection survey conducted by JICA (Japan International Cooperation Agency).
- ③ The Japanese government implements a support scheme to establish the university organization, develop the curriculum, recruit competent students and provide the necessary materials and equipment, and establish an environment in which the industry, educational institutions and the administration cooperatively execute the scheme. The Japanese government also assesses the needs of Japanese cooperation and develops a program for a hands-on and practical human resources by studying Japanese higher education systems.

- ④ The Japanese government actively reviews the mid- to long-term development possibilities of Eco City in Hoa Lac, where the University will be established, by considering the feasibility of implementing transportation means.

Since then, an extensive strategic partnership for peace and prosperity in Asia was concluded. When Vietnamese President Trương Tấn Sang visited Japan as a state guest, the partnership was formally included in the Japan Vietnam joint statement and validated by Phùng Xuân Nhạ, General Secretary of the Communist Party of Vietnam, and these series of events have continued to progress.



Former President of Vietnam Trương Tấn Sang, Former Ambassador Yasuaki Tanizaki and Mr. Toshiaki Koshimura, General Counsel, Tokyu Group (2013)

©The TOA Institution

I had many discussions with Phùng Xuân Nhạ, President of Vietnam National University, Hanoi. He is now working hard as the Minister of Education and Training. I would like to show my respect and gratitude for the sincere cooperation of the Vietnamese government and the Vietnam National University. In Japan, an advisory board promoting VJU was established by the LDP and actively lobbied at the initiative of politicians. A taskforce was also established at the prime minister's official residence to report directly to the prime minister. The support organization in Japan was established quickly. Thanks to the efforts of all involved, VJU finally opened its doors in September 2016, and you are here as members of the inaugural class.

I would also like to mention how I met Masaaki Yoshida, who was



Opening Ceremony – Vietnam Japan University (September 2016)

© VJU

introduced to me by former Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi. Mr. Yoshida is the representative of the Japan Vietnam Economic Forum and was in contact with Trương Tấn Sang, President of Vietnam. Mr. Yoshida has devoted himself to establishing VJU by thinking over the long-term about Japan, Asia and the world, 50 or even 100 years from now. It is no exaggeration to say that it was owing to Mr. Yoshida's contribution that the taskforce was established by the Abe administration and the Japanese government began at once to promote the establishment of VJU. If I had not met Mr. Yoshida, I would not have become involved in the project.

< Spirit behind the establishment of VJU >

Sometime in the past, Nobusuke Kishi, a former Prime Minister of Japan and the grandfather of current Prime Minister Abe, established a telecommunications college in Thailand. He approached Mr. Fujii, then the president of Nippon Telegraph and Telephone Public Corporation, and Shigeyoshi Matsumae, then the president of Tokai University, to establish a college by getting personal and financial cooperation over a period of many years. In 1986, the King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang was opened and then Foreign Minister Shintaro Abe, father of Prime Minister Abe, attended the opening ceremony. Prime Minister Abe was a secretary to Shintaro Abe then and visited Thailand with his father. I can say that the VJU project was done in the same manner as for the "Kishi Doctrine". VJU is a major undertaking symbolizing "active pacifism" that assertively creates an action to realize "peace and prosperity" not only for Japan but the Asia region and the world.

Vietnam and Japan now have a common goal of attaining a bright future and peace in Asia. The two countries want to push forward their national strategies to establish a totally new type of university –VJU. If you want to go to a Western university you can go to Singapore. If you want to go to a Japanese university you can go to Japan. I think that the ideal behind VJU is establishing a truly Asian university. That is why I have been saying that VJU must become the "Harvard of Asia" and not with the underlying belief that western is the ideal. This frame of mind comes from John Harvard, a clergyman who donated the land and his library in 1638 to establish Harvard University. He believed in a philosophy of the "foundation of a

school", which coincides with the intent of Vietnam and Japan to provide the infrastructure of land and buildings to establish the university.

Asia will be playing an increasingly large role in the world. Vietnam and Japan will jointly create a world class Asian university with you, the students. Now, the world is going through profound and rapid change. VJU should be a driving force to change both the world and Asia and should create diversified energies and intelligence that a university gains in an environment that encompasses multiethnicity, multifaith and multicultural. It also creates peace and prosperity. VJU is a symbol of these ideas and efforts and you are the students of the first graduate school in the world which offers sustainability studies.

"The *Kyojinka*", we gave to you today, is a report developed in June, 2014 by the Comprehensive Research Commission on the Establishment of the Disaster Resilient Japan. This commission, where Toshihiro Nikai holds the influential position of LDP Secretary-General, was created to discuss and propose "building a nation that is strong and resilient in the face of disasters" as a response to the Great East Japan Earthquake of March 2011, in which Japan lost a tremendous number of its citizens. As a result, the "resilient Japan" project greatly stresses the importance of disaster prevention, disaster mitigation and the bond among people. Vietnam is also a nation with many disasters and in that sense Vietnam and Japan share similar difficulties and issues. It is vital that the Climate Viability and Disaster Prevention Research Institution be established at VJU. Building a nation that is strong and resilient in the face of disaster has the same goal as sustainability, the philosophy of VJU. You can learn about this philosophy of sustainability by reading the *Kyojinka*.

< Student expectations >

I believe we can develop VJU over 5, 10 or 15 years (the age of majority in an older Japan) to be a world-class international university – a university that can fashion human resources who will play a critical role in the world. I would like to conclude by wishing you, the members of the inaugurate class, good luck in becoming "challengers" who will open up the future by pursuing the ideals of VJU. Thank you.

[Commentators who attended]



Mr. Tô Huy Rứa
(Honorary President of
Vietnam Japan University)



Nguyễn Hoàng Hải
(Vice President of Vietnam
Japan University)



Mr. Kunio Umeda
(Ambassador extraordinary
and plenipotentiary of Japan
to Vietnam)

[Questions by students]

1. I'd like to know how VJU plays a part now and will play in the future in the friendship alliance between Japan and Vietnam.
2. What expectations does VJU have for students, the members of the inaugural class, for continuous development.
3. I was impressed to learn about people's passionate efforts to establish VJU. What can you advise young Vietnamese about the secret of instilling such efforts?
4. Do both governments have a roadmap or a specific policy or goal for the establishment of VJU as the Harvard University of Asia? Give us an outline for such a roadmap or policy.
5. Promoting "cooperation" among universities involves many world standards such as infrastructure implementation, student capabilities, academic competency to matriculate or graduate from university, research results, etc. What is the most critical standard emphasized by VJU?

[Response]

Your questions have many common aspects. For example, "Why was VJU started as a graduate school only?" When a university is established, usually the undergraduate school is created first, followed by master's and then doctoral programs. The common part of your questions refer to expectations, concerns or hopes about what VJU would become. The Vietnamese government is also aware of these issues and is about to launch a feasibility study looking at the university as a whole. As I have mentioned, the Japanese



Special lecture by Mr. Tsutomu Takebe
© VJU

government launched a taskforce reporting directly to Prime Minister Abe. Under the direction of the taskforce, a committee of experts was established by key members from the Japanese economic



Special lecture by Mr. Tsutomu Takebe

© VJU

community, universities and government. The committee recently submitted an interim report about the university as a whole to Prime Minister Abe. Mr. Abe asked the committee to continue its discussions. The committee will be discussing the future of VJU by analyzing the current situation or by defining the university's future. By considering the results of discussions and investigations, the committee will determine how to finance the project to establish the university and how to obtain assistance from the private sector.

In Japan, schools were first established when Japan opened up in the early Meiji era. There was, however, no one then who held master's or doctoral degrees; and "ordinary" people taught and created a university with the students. Tokyo University was built by those with no credentials. So in a sense, the agricultural school, the predecessor of Hokkaido University, was also built in the same way. I want to emphasize that the future of VJU depends on you – how well you can do as members of the inaugural class at the university and how many accomplishments or results you can offer. You are the pioneers.

I want the university to become a true Harvard of Asia. I believe the university will become a world class institution in 10 to 20 years. Vietnam and Japan are working with strong conviction so that VJU will become a world-class international university.

On the other, I also want to ask you why you came to this university.

As VJU develops, it is important to listen to your opinions and set up a pragmatic plan that responds to those opinions. Maybe we won't be able to show a specific roadmap but the most important thing is that your precious life and careers should not go to waste. As Ambassador Umeda, representing the Japanese government, mentioned just previously, the Japanese government will be a responsible collaborator. I would like to emphasize that you are very

privileged to have passed the entrance examination and to be able to study at this university and we will not disappoint your hopes. You are the pioneers of Vietnam, Asia and the world. The university is fortunate to have secured such an excellently qualified faculty and it is also most important to establish an environment in which faculty tenure is ensured. I ask you to challenge yourself...try your best. You will find your way.

I envy you. I am already 75 years old and will not be here for another 50 years. If I could start my life again I would join you...try my best and take the initiative to make VJU the Harvard of Asia regardless of my field of study or the faculty. In some ways, I really wish that I could start my life again. But, I will move forward. I will not give up and I will live to serve the world. I feel young and think I don't look like a 75-year-old man. I have a young mentality. I want you to always have passion and implant that passion in the university. That will shape the university into its ideal state. If you put much effort into your studies, money will come and the university will prosper.

I have come to Vietnam nine times this year and only went back to my hometown five times. Why have I come here so many times? Because I want young people to work hard. I want you to challenge the future. I want you change the world, Asia and Vietnam. Indeed, I want you to have the fortitude to keep moving forward to achieve your goals and dreams by overcoming all difficulties, not just getting a good job or earning a lot of money. The world, the earth, is facing an unprecedented crisis. You have the potential to change that. But, to get the opportunity, you must challenge yourself. And to do that, you must change yourself to become "new yourself" at the university. It is a miracle that you have goals. It is a miracle that I could meet you today. We will support you to seize the chance and bring it to fruition. So, have the fortitude to face difficulties. Change yourself. Today, I give you the gift of three words: chance, challenge and change. Keep these words at the top of your mind...remember them and practice them every day. If you do, you will change and VJU will change. Beyond the horizon, the title "Harvard of Asia"- should be clearly visible.



Special lecture by Mr. Tsutomu Takebe
© VJU



My Dinh Campus,
Vietnam Japan University
© VJU



2017年1月13日発行

編集・発行 独立行政法人 国際協力機構

〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル

E-mail: 1rtd3-vju@jica.go.jp Web site: <http://www.jica.go.jp>

*本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。